



秋田への期待、 これからの秋田

〔秋田市観光クチコミ大使〕
株式会社商工組合中央金庫
人事部参事役兼人材開発室参事役

おく だ みね とし
奥田峰利氏

たくさんの思い出や経験を得て、秋田の地を離れ約1年半が経過しようとしています。この間、新型コロナウイルスの影響で私たちを取り巻く環境は大きく変化し、多くの企業や個人の皆様はこれまでにない対応を余儀なくされていることと思います。この原稿を書いている7月、私が住む東京では新型コロナの第二波が懸念されつつありますが、現在の秋田はどのような状況でしょうか。

秋田の思い出・魅力とは

私はいわゆる転勤族です。東北地方勤務は、福島・八戸（青森県）支店に続き3店舗目でしたが、2年8か月を秋田で過ごし感じたことは、秋田には多くの素晴らしい資源・強みがあることです。雄大な自然や温泉などの名所、美味しいお酒、四季折々の食材、そして地域社会で大切に引き継がれてきたお祭り等の伝統文化です。さらには、人々の優しさや温かさ、おもてなしの気持ち、そして皆様の地域に対する誇りや愛情、仕事への真摯な取り組み姿勢など、とても強く感じました。皆様にとっては日常当たり前のこと（もの）が、県外の者にとってはとても素晴らしく、大変魅力あるものです。

秋田の方とお話をすると、控えめでアピールが下手な県民性だからという声をよく聞きますが、本当にそれで良いのでしょうか。秋田の素晴らしさを多くの人々にどのように伝えていくか……素晴らしさは知ってもらわなければ意味がありません。

企業経営に求められるもの

これから迎えるウイズコロナ時代の経営は、これまでの延長線上にはない、企業価値を高めるための新たなビジネスモデルの構築が求められます。働

き方も大きく変わるかもしれません。ただ、個々の力には限界があります。組織の枠を超え、外部の力を活用し協業することによって新たな気づきが得られ、それを取り入れ変革していく必要があります。また、地域との関わりも一層高まると思います。秋田の強み・弱みは何でしょうか。例えば、秋田は人口減少、少子高齢化等が他地域に比べ進んでおり、それを悲観する声もありますが、本当にそうでしょうか。秋田の現状は将来の日本の縮図であり、秋田での取組や対策、その経験が今後の我が国の標準モデルとなる可能性もあります。

これらは決して簡単なことではありませんが、企業や地域が成長し発展していくためには世の中の変化に対応し続けることが必要です。そして、その中心の一つが情報力・ネットワーク力であり、その中核を担うのが、商工会議所であると確信しています。

微力ではございますが、私も秋田市観光クチコミ大使の一人として、秋田の素晴らしさを発信し、秋田ファンの獲得に貢献して参ります。加えて、秋田にご縁があった金融機関の一職員として、秋田の成長のために皆様と一緒に悩み考え、応援し続けていきたいと思っています。

最後になりますが、皆様の益々のご繁栄とご健勝を心より祈念いたします。

■略歴

1968年 神奈川県横浜市生まれ
1992年 慶應義塾大学商学部卒業
同 年 商工組合中央金庫(商工中金)入庫
2016年 同金庫 秋田支店長
2019年 同金庫 営業店サポート部参事役
2020年 同金庫 人事部参事役兼人材開発室参事役(現在)